



## 東京部会(第128回)

日時: 2022年5月6日(金) 19:00 - 21:00

場所: 慶應義塾大学三田キャンパス東館オープンラボ+zoom

参加者: 19名(会場6名+zoom13名)

### 【内容要旨】

(1) 丹松美代志先生(おおさか学びの会)より「厠・トイレ考(その2)～畿内の厠・トイレ事情」の報告があった。

これは2021年10月の大阪・東京合同部会で発表があった「「厠・トイレ考から中学公民の持続可能な社会づくりの授業を構想する」の続編である。

最初に、SDGsの第6目標(安全な水とトイレを世界中に)に触発された「うんこ本」の発行が相次いでいるという新聞報道の紹介、および、その1の内容の補足から説明があった。

今回の報告は、それをうけての農業先進地域の畿内の農業生産と糞尿肥料の関係、また、町方と農村の糞尿の扱いを巡る争い(国訴)、取引秩序の変遷、糞尿販売による収入、都市人口の推移と糞尿の関係など多面的な資料を、研究書や府市町村史、国会図書館のデジタルコレクションなどの収集分析からまとめたものである。

また、中学歴史教科書における肥料に関する記述、特にそのなかの江戸時代の記述を紹介されて、厠・トイレの学習が進められることを期待したいとまとめた。

質疑では、経済教育の観点からはインプットとアウトプットの関係がどうなっているかが知りたい、そのためには糞尿を肥料とした場合の生産の伸びのデータがあるかどうかという質問には、その種の資料は今のところは見当たらないこと、総じて新しい府市町村史より古いものの方が糞尿肥料を扱っていて古い刊行物のリサーチが必要との回答があった。また、蝦夷地のニシンの肥料としての畿内への移送なども話題に提供された。

(2) 阿部哲久先生(広島大学附属中・高等学校)から「正の外部性の視点を活かすようにさせる授業」の報告があった。

これは、高等学校2年生の選択「政治・経済」および高等学校1年生に実施した授業の実践記録である。

実践のねらいとして、環境問題を授業化する時には、外部不経済の問題として規制的な内容として扱うことが多いが、正の外部性に注目することで、積極的な取組みの可能性に気づくこと、及び、外部経済の概念を用いることで民営化や補助金に対する多面的な捉え方に注目させることの二つをあげている。

授業は、最初に環境と調和した生活のための政策を考えようと問題提起をして、環境問題、外部不経済による取組みを紹介した上で、外部経済の概念を紹介、解説するという流れで始まる。

外部経済の例として、学校教育、鉄道の廃止問題、環境問題の正の外部性の事例をとりあげ、そこにおける政府の役割、民営化や補助金の事例を紹介した上で、外部経済の視点を活用して環境と調和した生活を実現するような政策を提案させるという流れである。

生徒の反応では、「考えたことがなかった、広がった」という感想がでてきて、新しい考え方を獲得して社会の問題の解決に活かそうとする議論に意欲的に取組んだことがうかがわせるものが得られたが、結果として獲得した力が正確にはみとれないという課題がのこったとの報告であった。

質疑では、外部性とその対応と言っても農業と鉄道ではその意味と対応が違うのではないかという指摘があった。



授業の目的がもう一つ絞れていない、新古典派の結論を薄めただけで授業構成しているのではないかというコメントも出た。

教育の外部性に関する政府の介入に関して、介入の実際や効果をもっと考えさせるようにすべきという意見には、学歴の再生産による格差などを考えると政府がもっとサポートする必要があり、そのことは生徒に伝えていたとの反論があった。

三つの事例では、教育に絞ってもっと迫った方がよかったのでは、最後に生徒に提案というかたちで投げたのは残念という意見も出た。

また、環境の外部性でビールメーカーが水田の保水事業に援助をしている事例が紹介されたが、正の外部性を内部化できるなら政府はいらぬのではないかと、どこまで政府が介入するかを考えさせるような授業が必要になるのではとのコメントも出された。

経済概念を使った授業の在り方、また経済概念の理解に迫る質疑が繰り広げられる報告となった。

(3) 塙枝里子先生(東京都立農業高高等学校)から「公共」の教科書で職業選択はどのように扱われているか」の報告があった。

これは「夏休み経済教室」の「職業選択を「公共」で教える」というプログラムの準備作業のために「公共」教科書の職業選択の部分をリサーチしたものである。

報告では、新科目「公共」の各社別の占有率が紹介され、そのなかの上位4社の教科書の分析が行われた。4社すべての教科書で「職業選択」が扱われていたが、会社により、本文でかなり扱う社と本文はなく特設ページで重点的に扱っている会社と各社それぞれの特徴があることが分析された。

またそれぞれの会社の教科書で登場する用語(ゴシック体)を整理して、教科書の特色を浮かび上がらせる分析も紹介された。

総じて、扱う分量や方法、資料に差はあっても、各社職業選択について工夫をこらして扱っていて、公共の学習において飛ばされることなく授業実践が行われることを期待したいと結んだ。

最後に、2年前の「夏休み経済教室」で報告された「椅子取りゲーム」を取り入れた職業選択の授業の現在での総括と今後の取組みに関して簡単に触れられた。

質疑では、家庭科の教科書での扱いが今回「公共」の教科書でも見られているとの指摘があり、春の経済教室での金融での家庭科と公民科の相互浸透が、この領域でもあることが紹介された。

(4) 今年の「夏休み経済教室」のプログラムの内容が紹介された。

中学は大阪、東京とも同じプログラム。大阪は対面のみ、東京はハイブリッドでの実施となる。

高校は、政治と経済の講演が入り、それぞれ別の講師となるので、大阪高校も東京高校もハイブリッドでの実施となる予定で準備することが確認された。

プログラムの詳細は正式に決まった時点でHPにアップする予定であるとの報告があった。

以上、記録と文責:新井

<input type="checkbox"/> テスト問題 (新テストなど)	<input checked="" type="checkbox"/> 中学	<input checked="" type="checkbox"/> 高校	<input checked="" type="checkbox"/> 指導案	<input type="checkbox"/> 新聞教材(NI E)
--------------------------------------------	----------------------------------------	----------------------------------------	-----------------------------------------	----------------------------------------

次回開催予定: 2022年7月22日(金)19時00分~21時00分 慶應義塾大学+zoom

議題 夏休み経済教室の内容確認、実践案の検討など